

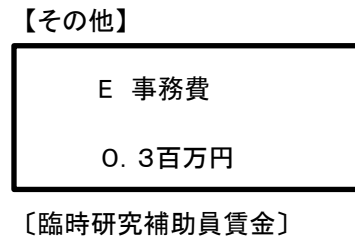
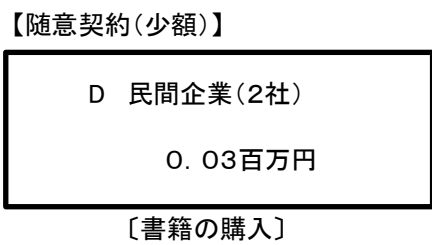
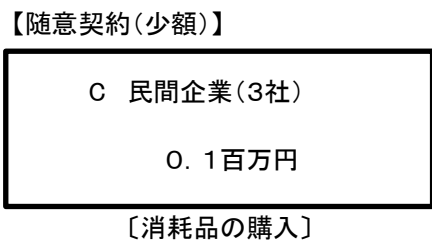
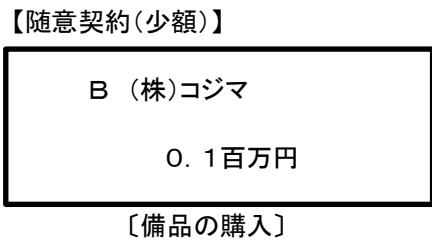
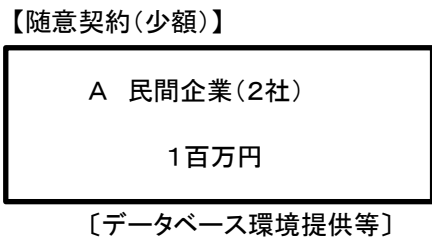
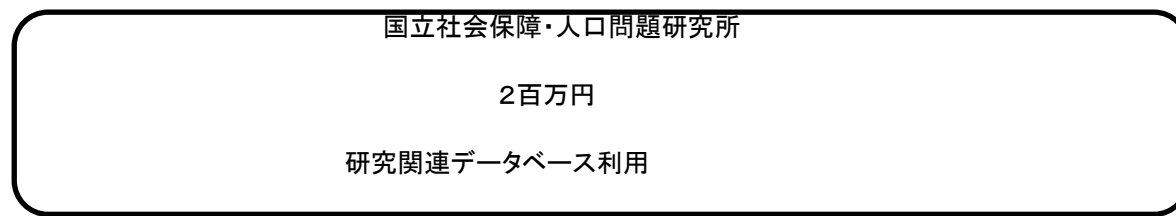
平成29年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

事業名	国立社会保障・人口問題研究所基盤的研究費			担当部局庁	国立社会保障・人口問題研究所	作成責任者			
事業開始年度	平成14年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課	前原 正男			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	-				
主要政策・施策	医療分野の研究開発関連、科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	当研究所においては、高齢化、少子化等を背景として、今日、重要な政策課題とされている社会保障及び人口問題に関する政策研究を実施しているところであるが、これらの研究に当たっては、行政当局からの要請に迅速かつ的確に応えることのみならず、研究所の所掌に係る各研究領域において、内外の学術・学説の動向、政策上の論点等の把握、内外の先駆的調査手法、推計手法等の把握・開発等の基盤的研究を実施するものである。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	社会保障・人口問題全般における基礎資料及び情報の収集やデータベースの整備等を実施する。 なお、平成29年度より研究者の業務を補助する研究補助員を採用したところである。								
実施方法	直接実施								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
		当初予算	5	2	2	13	13		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計	5	2	2	13	13			
	執行額	5	2	2					
執行率 (%)	100%	100%	100%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	100%	100%	100%						
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	試験研究費	13	13	人口推計等の外部からの問い合わせ対応、ホームページ運営、社会保障費用統計や全国調査の集計補助業務といった研究員の業務負担軽減のため、平成29年度より研究補助員の採用をしたところである。					
	計	13	13						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度
	当研究所で実施している様々な研究の基盤に位置付けられるため、評価対象となる全ての研究に対する当研究所の平成29年度の研究評価委員会の総合評点の平均が3.5点以上であること。	研究評価委員会の総合評点の平均をもって成果指標とする。(5=特に優れている、4=優れている、3=良好、2=やや劣っている、1=劣っている)	成果実績	点	4.2	4.2	4.3	-	
		目標値	点	3.5	3.5	3.5	-	3.5	
		達成度	%	120	120	123	-		
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	平成28年度国立社会保障・人口問題研究所研究課題評価報告書								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	研究課題数	活動実績	回	8	8	8			
		当初見込み	回	8	8	8	8		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	執行額/研究課題数	単位当たり コスト	百万円	1	0.3	0.3	1.6		
		計算式	X/Y	5百万円 /8件	2百万円 /8件	2百万円 /8件	13百万円 /8件		

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	施策大目標1 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること							
	施策	XII-1-1 国立感染症研究所など国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること							
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 29 年度
		国立社会保障・人口問題研究所における研究課題評価 (毎年度実施)※総合評価は5点満点で、3点「良好」の評価	実績値	点	4.2	4.2	4.3	-	
			目標値	点	3.5	3.5	3.5	-	3.5
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	社会保障・人口問題全般における基礎資料やデータベースの整備等を実施する。 これは、社会保障・人口問題研究所において実施している各種研究調査の土台としての役を担っており、これらの調査研究の質の向上に資するもの。								
	改革項目	分野:	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値		-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-		
	目標値	-	-	-	-	-	-		
	達成度	%	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
	項目	評価	評価に関する説明						
国費投入の必要	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	社会保障・人口問題全般における基礎資料やデータベースを提供しており、重要な政策課題において必要不可欠なものである。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国の研究所の研究基盤として国が環境整備すべき必要がある。						
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	研究を実施していくための基盤という位置付けで、優先度も高い事業である。						
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○							
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	契約金額が少額であっても見積合わせの実施により競争性を確保している。						
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	単位当たりのコストは妥当である。						
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-							
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	真に必要なものに限定されている。						
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-							
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-								
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。						
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	研究所の研究基盤として必須となる研究データ等を整備するもので、効果的に実施されている。						
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は見込みに見合ったものである。						
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	社会保障・人口問題全般における基礎資料やデータベースは、研究基盤として有効に活用されている。						

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	本事業は、研究所の所掌に係る各研究領域において、内外の学術・学説の動向、政策上の論点等の把握、内外の先駆的調査手法、推計手法等の把握・開発等の基盤的研究を実施するものである。その一方で、国立社会保障・人口問題研究所運営経費は、優れた研究成果を創出し、それを次の段階の研究に反映するための研究評価を実施するとともに、機関誌等の刊行により研究成果を広く社会に提供し、組織運営の適正化を図るため、評議員会を開催している。従って、内容及び経費執行に重複はない。	
	所管府省名	事業番号	事業名		
	厚生労働省	0854	国立社会保障・人口問題研究所運営経費		
点検・改善結果	点検結果	発注などの契約手続については、一般競争入札や見積もり合わせにより競争性を確保する等により予算執行の効率化を継続しつつ、研究内容の質を維持するため必要な取り組みを実施している。			
	改善の方向性	研究を実施していく上で基盤となる事業であり、当研究所において欠かせない事業である。予算についても適切に執行しており、当該事業の目標は達成しているところである。引き続き一層の無駄の削減に留意しつつ事業を実施していくこととする。			
<b>外部有識者の所見</b>					
本事業の重要性は認識するが、想定される活動数が変わらない中で、研究補助員の採用によると思われる予算の増加(2百万円→10百万円)についてレビューすべきである。また、関連事業の当研究所の運営経費との役割分担が分かりづらいので、説明を改善して頂きたい。(栗原 美津枝)					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
事業内容の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究補助員の採用によると思われる予算の増加(2百万円→10百万円)について、その理由を「主な増減理由」欄に記載すること。</li> <li>運営経費との役割分担をより明確にすること。</li> </ul>				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
現状通り	運営経費については機関誌の発行を主な業務としているが、本事業は研究全体の基盤となる基礎的研究を行っているものである。引き続き必要な予算を確保し適正な執行に努めていきたい。				
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>					
平成22年度	607	平成23年度	550	平成24年度	489
平成25年度	873	平成26年度	873	平成27年度	883
平成28年度	852				

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

<b>費目・用途</b> (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			D.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
	E.			F.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0

### 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	日本コンピュータシステム(株)	2010401083715	データベース環境提供	0.9	随意契約(少額)	-	100%	-
2	日本電子計算(株)	2010601038584	統計資料の電子化	0.2	随意契約(少額)	-	100%	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(株)コジマ	2060001001667	備品購入	0.1	随意契約(少額)	-	100%	-

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(独)統計センター	7011105002089	消耗品購入	0.1	随意契約(少額)	-	100%	-
2	(株)ライトストーン	5010601032155	消耗品購入	0	随意契約(少額)	-	100%	-
3	(株)コジマ	2060001001667	消耗品購入	0	随意契約(少額)	-	100%	-

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(福)友愛十字会友愛書房	1010002015390	書籍購入	0	随意契約(少額)	-	100%	-
2	(福)友愛十字会友愛書房	1010002015390	書籍購入	0	随意契約(少額)	-	100%	-
3	(福)友愛十字会友愛書房	1010002015390	書籍購入	0	随意契約(少額)	-	100%	-
4	(株)紀伊國屋書店	4011101005131	書籍購入	0	随意契約(少額)	-	100%	-

E

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	臨時研究補助員	-	臨時研究補助員賃金	0.3	その他	-	-	-

